

①建物の引きと奥行きを重視し、旧居留地の邸宅のスケールの継承

計画建物は北側道路から引きを取った配置計画とすることで景観に配慮した計画とします。植栽越しに建物が垣間見えることで、山手らしい奥行のある空間をつくります。建物ボリュームは長大にならないよう分節することで周辺地域のスケールに合った建物とします。

②周辺環境と連続した緑のネットワーク

道路境界際には既存樹木も活用した緑豊かな景観をつくります。山手らしい樹種の他にも、実のなる樹や季節ごとに表情が変わる樹木を織り交ぜながら、周辺環境と一体感がある緑のネットワークを形成します。

③土地の記憶に寄与する、周辺に調和したテクスチャ

以前この地に建っていた建物と、高低差処理の擁壁の雰囲気を受け継ぎ、暖色のアースカラーで植栽と調和した建物外装とします。背後にも近代文学館の森を抱える事から、樹々になじむ一角を創出します。



景観形成の計画

既存のソメイヨシノ3本が生育するよう十分なクリアランスを確保し、前面道路から大きな引きを取った建物配置とします。
 低木・中木・高木の組み合わせにより、建物前面の駐車場を隠し、存在感を可能な限り無くします。
 奥まった車室部分上部へはエントランスからのキャノピーを伸ばし、一体感を高めます。



景観形成の手法

前面道路から十分に引きを取ります。
 既存ソメイヨシノを避けるように建物を雁行させ、邸宅のスケール感を守ります。
 近接するG敷地では新植のサクラ（アマノガワ）を計画しており、植栽の連続感を守ります。

神奈川近代文学館の森

赤点線：以前の建物輪郭

F敷地

サクラアマノガワ

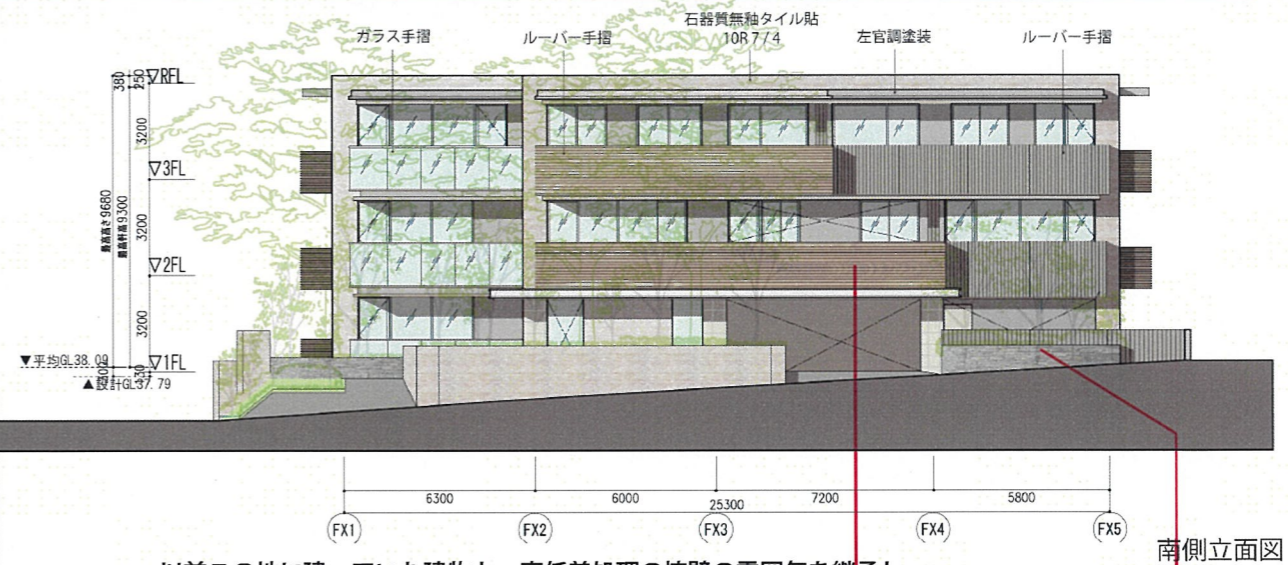
サクラアマノガワ

既存ソメイヨシノ

F～G敷地で連続する
鉄平石小端積みで曲線を描く
植栽帯

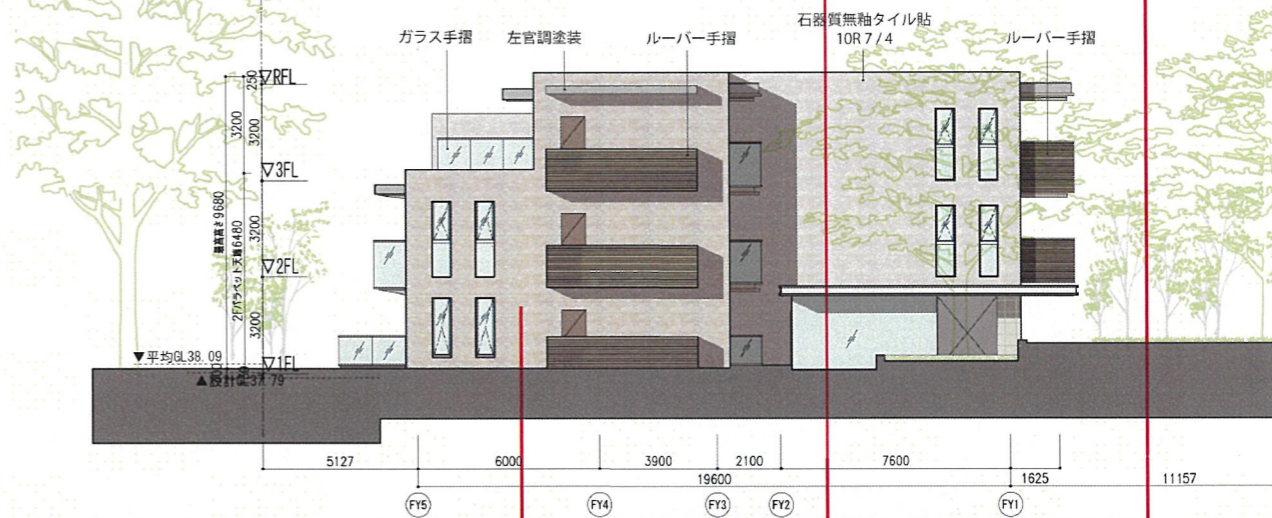
平面図兼配置図 S=1/400

Google



南側立面図

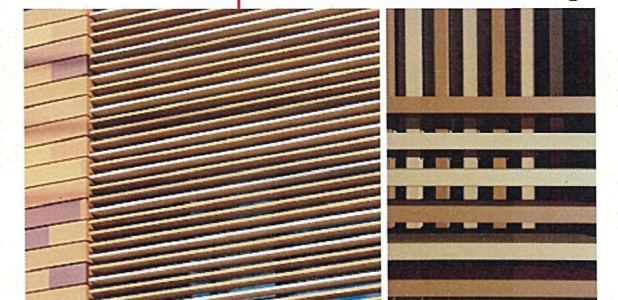
以前この地に建っていた建物と、高低差処理の擁壁の雰囲気を受け継ぎ、暖色のアーチカラーで植栽と調和した建物外装とします。背後にも近代文学館の森を抱えることから、樹々になじむ一角を創出します。外構要素については隣接するG敷地と一部共通性を持たせます。



外装レンガタイル image



鉄平石小端積み image



ルーバー手摺 image